

【生薬名】 冬瓜子 *BENINCASAE SEMEN*

【起源植物】 トウガン *Benincasa serifera*



【科名】 ウリ科Cucurbitaceae

【別名】 白瓜子・一名水芝(神農本草経)、カウモリ、トウガ

【薬用部分】 成熟した種子

【主成分】 オレイン酸・リノレン酸、アデニン・トリゲネリン

【薬性】 気味は甘寒、帰経は脾胃大腸小腸に属す

【効能】 ●清肺化痰・排膿

●利尿・消炎作用は炎症性の腫脹・化膿に効果がある

●6～12g

●浮腫に果肉をスープや炒め物に料理して食す

●果皮1日20gを煎じて3回に飲む

●種子は腫れ物や浮腫に1日3～12gを煎服する

●果汁は体の疲れを取り除くのに有効だという

●咳には果皮を甘草か竹葉と煎じて飲む

●痔には冬瓜子の煎液で洗う

【出典】 ●小腹水腫、小便を利し、渴を止める(名医別録)

●令人悦澤、好顔色、益氣不飢、久服輕身耐老。(神農本草経上品)

●治水腫(一本堂薬選)

【備考】 ●果肉は食材として利用されている

●日本産の冬瓜子は種子の縁が隆起した双边冬瓜子と呼ばれるもので、中国産のものは隆起のない单边冬瓜子と呼ばれるものもある

【処方例】 ●大黄牡丹皮湯、千金葶藶湯